令和7年度環境保全報告書

生活協同組合コープこうべ

1. 環境保全報告書の記載範囲

生活協同組合コープこうべは、兵庫県下全域および大阪北摂地域、京都府京丹後市で事業を行っている組織であり、環境の重点取組目標・計画は全体で策定しております。そのため、以下の記載内容はコープこうべ全体の実績の報告となります。

なお、これまで本環境保全報告書にて報告を行ってまいりました、コープこうべ食品工場については、令和７年３月 31 日をもって事業を終了しており、昨年度をもって当該項目の報告は終了とさせていただきます。

2. 当該年度の重点取組目標・計画の実施状況

(1) チャレンジ１「CO2 排出量を半減！」 （基準年：2013 年度　政府目標の基準年と同一）

エネルギー使用量の削減や再エネ 100%事業所の継続等、「量の削減」・「質の改善」両面の取り組みを行ったものの、排出係数算定ルールの変更※1 により、CO2 排出量（2024 年度※2）は基準年比 33%削減、と前年差+5%と微増。

※1　①国による排出係数の見直し（従来の「基礎排出係数（FIT 電気の CO２排出量をゼロと見なして算出)」から「新・基礎排出係数(FIT 電気の CO2 排出量を全電源平均の CO2 排出量と同等と見なして算出)」へ変更）により、CO2 排出量が微増
②従来の方法で算定を行った場合は、前年度から 8556t-CO2 の減少（2013 年度比 44%減)。

※2　CO2 排出量は最新の「2024 年度確定値」で算出（2025 年度実績は 2026 年６月以降に確定予定)。

	2025 計画	2025 実績	評価
1	低 CO_2排出係数の電力会社への切替（32 事業所）	32 事業所について、CO_2排出係数の低い電力会社への切り替えを実施し排出量を抑制。「新・基礎排出係数」への対応が課題。	△
2	「再エネ 100%事業所」はスタート時の８事業所を継続	「再エネ 100%事業所」は８事業所を維持。2026 年度からの８事業所全てにおける非化石証書付き電力への切替に向けて準備。	○
3	省エネ施策の実施・継続	外部委託「省エネ施策」を 2024 年度中に終了、以後、内製化して取り組みを継続。従来の方法で算定した 2024 年度の CO_2排出量は、2023 年度差で△8556t- CO_2（2013 年度比 44%減）の実績。	○
4	宅配ｺｰｽﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄによる配送効率の向上（走行距離・使用燃料の削減）および AI を活用したコース整理。	ＡＩを活用したコースマネジメントを積極的に推進、７区域 19 コースを削減。走行距離は冬季一斉休業の影響も含め、前年から約 40 万㎞削減。また、消費燃料も約６万Ｌ削減（前年比 96.8%）。	○
5	ＥＶトラックの導入検討・EV 車の稼働率向上	引き続き日生協等と連携しながら情報収集を継続。ＥＶ乗用車については新車両（航続距離改善）効果により乗車・稼働率が向上。	△
6	設備更新の際、省エネ設備への切替えを促進（空調８店舗・LED２店舗・冷ケース４店舗を計画）	・空調機の更新（ＣＭ大森、ＣＭ西舞子の２か所） ・LED 照明に更新（コレル大久保、鳴尾浜配送センター他６か所） ・冷ケースの更新（C 稲美、C 柏原他５か所）	○

(2) チャレンジ 2「食品廃棄物を半減！」（基準年：2015 年度　SDGs の基準年と同一）

店舗における廃棄ロス削減の継続的な取り組み、堆肥化業務の外部委託化に伴うエコファームの食品残さ「回収店舗・品目拡大」により、基準年比 52.2%削減、と５年前倒しで目標達成。

	2025 計画	2025 実績	評価
1	食品リサイクルの向上 ①食品残さ回収対象店舗を 58 店舗から 65 店舗に拡大。店舗の運用手順を見直し、回収量増加を図る。 ②食品残さの回収が困難な遠隔地店舗について対策を検討。	①残さ回収店舗を 58 店舗から 68 店舗（計画差+３）へ拡大。 運用手順見直しにより、既存店舗からの回収量拡大を実現。（回収量実績　2024 年度：約 708ｔ→2025 年度：約 847ｔ） ②遠隔地（ＣＤ相生、Ｃ柏原）において肉脂の加工くずの回収を開始。魚アラの回収店舗を拡大（Ｃ宝塚、Ｃ島本）。	◎
2	店舗事業における取り組み ①チャンスロス、ロス削減の施策を実施するとともに、「商品日付点検ツール」の導入を検討。 ②「てまえどり」運動のさらなる推進のため､「ハピネスチャージキャンペーン」の水平展開を検討。	①廃棄ロス削減の施策を実施し、「商品日付点検ツール」の導入を引き続き検討。 ②期限が迫った商品の購入をこども食堂への寄付につなげる「ハピネスチャージキャンペーン」をＣ北鈴蘭台、Ｃ鈴蘭台東、Ｃ三田西、Ｃ島本、Ｃ新光風台、Ｃ桜塚で実験展開。 ①②等の取り組みにより、2025 年度ロス高は 6.2 億円（前年比 97.1%）に抑制。	○
3	消滅型生ごみ処理機「ＰＯＩＴＯ」の安定稼働を進め、店内で発生する生ごみの約８割削減をめざす。	生ごみ処理機の設置４店舗合計で年間約 34ｔの食品廃棄物の排出削減を実現。2025 年度の削減実績をベースに、廃棄物回収業者に対し一般廃棄物処理費用の削減交渉をすすめる。	○
4	魚崎浜、見津が丘の各集配Ｃで発生する余剰商品の有効活用を推進。	各集配センターで発生した余剰食品の有効活用（堆肥化）を実現。できた堆肥はエコファームで野菜生産に活用。	○

(3) チャレンジ 3「プラスチック使用量を 25%削減！」（基準年：2017 年度）

ＮＢ商品への切り替え等にて、基準年比 28.7%削減と、５年前倒しで目標達成。

	2025 計画	2025 実績	評価
1	商品包材や資材におけるプラ削減を推進	ＰＢ商品（生産部・COOP 商品）のＮＢ商品への切替や、備品等の削減により前年差△197ｔのプラを削減。※2024 年度実績で算出	◎
2	畜産ノントレー商品の拡充	商品の供給は苦戦するも、個店状況に応じた展開は継続。2026 年度は、引き続き供給状況を精査し、アイテム・量目・展開方法について見直しを図る。	△
3	「マイバッグ運動 NEXT」の推進	各種広報、レンタルバック・シェアバッグの取り組みを推進。 マイバッグ持参率はほぼ横ばいの 90.5%。	○
4	宅配内袋の再利用（店頭リサイクル BOX 回収袋）	宅配内袋をリサイクルし、店舗の店頭リサイクル BOX 回収袋を製作。 店舗での実使用において、破れ易い等の不具合が発生。使用を中止し、従来品へ切り替え。	×

(4) チャレンジ4「エシカルな商品やサービスの開発・供給推進！」

エシカルな商品や「コープでんき」の普及・拡大、脱プラ施策の強化等を実施。

	2025 計画	2025 実績	評価
1	エシカル強化月間を中心に、エシカルな商品の企画・供給を促進（店舗・宅配・供給政策推進室との連携強化）。	①「とれぴち」を中心とした地産地消の強化（CO・OP ＮＥＸＴ100 商品や脱プラ等、エシカルな商品の企画・供給を実施）。 ②ＪＡ兵庫六甲「黒大豆枝豆（規格外）」企画を継続実施。 ③規格外のバナナを使用した CO・OP ＮＥＸＴ100 商品のアイスを開発・展開。 ④SDGs 推進部・商品政策推進室共催で「地域つながるフォーラム 2025」を開催、エシカル消費につながる商品をＰＲ。シーアでのエシカル商品利用ポイントプレゼント企画を同時開催。 ⑤ＦＰ商品の供給高が 6,152 百万円（前年比 107.3%）と伸長、Ｃ商品内構成比が 8.9%（同+0.5%）と、エシカル消費が拡大。	○
2	「コープでんき」理解促進策の実行	①「コープでんき」契約組合員（抽選 1,000 名）にエコファームのソーラーシェアリング栽培野菜のプレゼント企画を実施。 ②2026 年４月からの電気料金改定（値下げ）お知らせを契約者全員に送付。２月１回のめーむチラシやＨＰでも告知を実施。 ③固定価格買取制度が終了した組合員宅からの太陽光発電「余剰電力買取サービス」を継続実施（2026 年３月末時点 153 件）。	○
3	循環型社会の実現に向けた新たな資源の有効活用の推進	①寄付機能付きペットボトル減容回収機を新たに 2 店舗（Ｃ兵庫、Ｃ西神）に設置、計 22 台で地域資源を回収。回収数量に応じ、寄付金を地域団体へ贈呈（総額 457,660 円/年）。 ②６月より全ＫＣにて廃食油回収を展開。年間約 40ｔを回収。 ③コープこうべ・神戸市（下水処理場由来の「こうべ再生リン」提供）・リサイクラー（大栄環境㈱）・ﾒｰｶｰ（自然応用科学㈱）との協働により、「花と野菜の培養土」を供給開始。	○
4	羽毛の回収・リサイクルについて、店舗での実施継続・強化	４月、10 月に「500 円チケット割引配布企画」を実施し、回収枚数 3,227 枚（前年比 112.７%）の実績。	○
5	組合員・行政・他社と連携し、資源循環の取り組みを強化	神戸市等と協働で進める、「使用済みつめかえパック」の回収・リサイクルの取り組みを推進。	○

(5) チャレンジ5「組合員とともにエシカル消費・活動を拡大！」

新コンテンツの企画・実施を通して、エシカル消費・活動を展開。

	2025 計画	2025 実績	評価
1	「玉津のつどい場（たまろっと）」の SDGs 拠点化を推進。紙リサイクル機器「ペーパーラボ」を活用したカレンダープロジェクトを展開し、資源循環・障がい者雇用の取り組みを見える化を推進。	①再生紙を台紙としたカレンダーのデザインを募集する「ハピネスアート・コンテスト」を開催。地域の障がいのある方から 329 点の作品が寄せられ、12/12 に受賞者・関係者を招き表彰式を開催。事後、マスコミ記事にも掲載。 ②取り組みの名称を「紙つむぐプロジェクト」と改め、ＨＰをリニューアルし、発信力を強化。	◎
2	「エシカル消費」をテーマとした「地域つながるフォーラム 2025」を開催。	11 月 15 日（土）、「コレルせいぶん」にて開催。CO・OP ＮＥＸＴ100 商品等の紹介や、各協同組合、行政、地域団体が出展し、エシカルな商品、サービスを楽しみながら学ぶワークショップを開催。関係者、参加者約 400 名が参加し、つながりを強化。	◎
3	エシカルやＳＤＧｓに関する講演会・学習会の実施	コープ委員会や外部団体・学校からの講演・学習会依頼に対し、計 28 回、延べ 1,080 人が講義を受講。	◎
4	フードドライブ常時受け付けの継続、店舗・宅配での集中取り組みを年２回（９月・１月）開催	全コープ店（ＣＭは除く、ＣＭﾙﾐﾅｽ箕面は実施）でフードドライブの常時受付を継続実施。９月と１月には全店舗・全宅配で集中受付キャンペーンを実施。年間で約 44ｔの食品を回収。	○
5	職員研修（ま Navi）ツールとしてＳＤＧｓ関連映画の視聴・学習企画「シネマ de SDGs」を継続開催	年間のべ 30 人が企画に参加し映画を視聴、映画を通じて社会課題を学習。3 /16 外部講師を招き特別企画（ＷＥＢ）を実施。	○
6	日生協主催のコープサステナブルアクションへの積極参画	アクション説明会の案内・企画参加を呼びかけ。	○
7	古紙めーむ・宅配内袋の返却の呼びかけ強化を実施。回収率向上を促進	宅配運営部と連携し、各ＫＣ毎の回収目標を設定するなど、取り組みを強化。古紙めーむ回収率「68.2%（前年差 2.6%）」、宅配内袋回収率「18.8%（前年差 0.3%）」の実績。	◎
8	『ステーション』等への情報掲載を通じて、エシカル消費・SDGs に関する情報を発信（強化）。	①ステーションにてエコファーム・有機農業教室の特集号企画。 ②行政と連携した子育て支援品に、環境の取り組みに関する紹介チラシを同封し、取り組みをＰＲ。	○
9	「ラジオ関西」（毎月）でのエコの取り組みの発信	「コープエコのはなし」と題したラジオ番組を企画し、毎月テーマ設定し時節に沿った情報を発信。	○
10	社家郷山の活動を「自然共生サイト」へ登録	「コープの森・社家郷山」の活動が、生物多様性の保全活動に関する環境省の認定制度「自然共生サイト」に認定・登録。活動を通じた生物多様性保全に関する取り組みの発信力を強化。	◎

以上